

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672900293		
法人名	社会福祉法人 秀孝会		
事業所名	グループホーム京都ひまわり園 2階ひまわり		
所在地	京都府八幡市八幡清水井20番地		
自己評価作成日	令和6年1月7日	評価結果市町村受理日	令和6年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所目標である「第二の我が家、第二の家族」を目指し、それぞれの入居者がその人らしく生活できるように、自宅に帰ることや好きな物を食べること等、個人の希望を実現できる取り組みを行ってきました。今年度は少しずつですが、ドライブに出かけたり地域の移動スーパーの利用を開始する等、外に向けた取り組みも進めてきました。</p> <p>医療面では小川医院と連携を図り、入居者が元気に安心して生活できるように努め、入居者、家族の意向に合わせて最期まで施設で過ごせる環境を整えています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JijyoSyosyoCd=2672900293-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>感染予防のため、行動制限のある中で、一人一人の利用者が「どの様な生活を送りたいのか」「何が出来るのか」と職員は絶えず議論をして「その時、その時、出来ることを精一杯しよう」と取り組まれています。また、本来のグループホームらしさを追求し、共同生活に重きを置いた生活の仕方を大切にされています。利用者が生活の仕方を忘れていたことでも、きっかけを作り、職員が寄り添うことで、潜在能力を引き出し、「始めに迷っておられたのは何だったのだろう」という姿を引き出されています。出来ないから、分からないからではなく「出来るようなきっかけづくりをされる」ことを大切にされている実践をおこなっています。料理を一緒に作る時、人參と包丁を渡され戸惑ってらした利用者が、横に座った職員が見本を見せることで、よみがえり次々と手際よくされていました。また、入居された時は特に利用者が慣れていられる様子に細心の注意を払われ、慣れて行かれても、リラックスできているか、にも心を配られ、緊張を解く関わり方に注意を払い「我が家で生活できるように」との目標に沿って、支援の細やかさが感じられる事業所です。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和6年2月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「照千一隅」を基本に「第二の我が家、第二の家族」の事業所目標を掲げ、法人理念と事業所目標の周知と共有を行っている。	法人の理念に沿った事業所目標は、毎年3月に振り返り、職員みんなで確認をしている。利用者・家族には、契約時に、事業所目標に掲げて大切にしていることを説明している。玄関と事務所に掲示し、パンフレットやホームページに掲載して広く周知している。利用者の様子から緊張感を持たないで我が家で生活するようにリラックスできているかの心配りもされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為、コロナ前の様に利用者が人の多い場所へ出かける事は未だ控えているが、地域の医療、看護や馴染みの訪問理美容、訪問マッサージ、地域の移動スーパー等を利用できるよう支援している。今年度地域の敬老会は中止となっている。	感染症予防のため、人込みを避けている。会食を伴う外出は出来ていない中で、地域資源との繋がりを、訪問理美容の利用や地域の移動スーパーに事業所の前庭に来てもらい、利用者の経験値を広げている。協力医や訪問看護師・訪問マッサージ師は地域の方にも来てもらっている。地域の行事の案内も届いているが、まだ中止が多い。社会福祉協議会を通してのボランティアの方が大勢入っていただいていた頃を待ち望まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催している。事業所内の報告やご家族からの意見、他事業所の情報収集等も行い、自施設のサービス向上に活かせる様努めている。	会議のメンバーは八幡市高齢介護課・家族(各ユニット代表)・梨の里地域包括支援センター職員・看護小規模多機能居宅介護事業所すみれ職員に来てもらい、議題は利用者・職員の状況、行事報告や予定、研修、感染対策、事故などを報告し、参加者から情報をもらい意見交換をしているが意見は少ない。意見を言ってもらえることを、今後の課題とされている。	議事録はメンバー全員への配布をされているが、家族への配布はされていませんでした。家族にもわかるような議事録の作成を課題とされているが、メンバーや家族を対象とした議事録を作成され全員に同じ議事録の配布をされては如何でしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の状況報告を行い、会議録を後日持参している。必要時には適宜連絡や訪問を行い相談、助言頂く様にしている。	行政の担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、会議で来られた時に、いろいろと相談をしている。更新時や議事録、事故報告書を持って行っている。担当者が会議欠席の折は、必ず事前に意見をもらうなど、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一度身体拘束廃止委員会を開催している。事業所内勉強会も年二回開催。施設玄関内側は施錠しているが、防犯対策の為の施錠と理解し、入居者が外に出たい時には出られる環境を作っている。	法人の身体拘束廃止委員会に職員が参加をして、職員会議で伝達し、議事録の回覧でも周知している。年2回の身体拘束の研修は法人自主研修会と事業所内の職員会議でおこなっている。日々、利用者に、言葉のしぼりをしていないかなどスピーチロックに気を付けている。職員同士では切迫場面から離れるように、自分がコントロールできない時は他の人と変わることを話し合い、お互いが気配りをし合っている。家族には転倒についてのリスクや離床センサーを使う時に説明をして意見をもらっている。利用者が外に行きたい時はいつでも出られる環境を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会、事業所内勉強会で学ぶ機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会で学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約説明、退居時の解約説明を行っている。疑問点については理解してもらいやすいように説明対応している。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 2階ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族面会時、電話連絡時などに意見を伺う機会を設けている。頂いた意見については運営推進会議や会議録を通して外部へ表せる機会を設けている。	家族からは気さくに意見を聞くことが多いが、利用者の処遇についての意見が多い、特にケアプランの見直し時はゆっくりと話している。レクリエーションやイベントの希望には、グループホームとしては、残存機能の活用で利用者が自立した生活ができることを大切に支援をしている。このような日々の生活の仕方を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議で事業計画の進捗把握を行い、計画担当者以外の意見も取り込んで反映できる機会を設けている。	職員からは気付いたときに話をしてきたり、毎月の職員会議で事業計画を振り返る時に意見を聞いている。職員会議は意見が出しやすい雰囲気とみんなで話し合い考え合える風潮を持っている。事前に会議のレジメを配布し、参加できない時は意見を書いて渡している。職員からは、昼食づくりの提案や工夫などの意見が多く、聞いた意見は話し合い反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備については毎月の安全衛生委員会話し合いを行っている。個々の休務希望はできる限り対応し、毎月1回は連休を取ることができるようにしたり、遅出業務翌日は早出業務にならない様にシフト作成時配慮している。今年度からは正職員以外の雇用者に特別休暇が年二回付与されることになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、自施設入所前までに関わりのある事業所のケアマネージャーや相談員から情報収集を行い、環境が変化する事での身体負担に配慮し、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望等もサービス導入時に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に医療面や緊急時の対応での心配が多いが、医療機関への紹介や緊急時の対応についての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事はなるべく自分でしてもらい、出来ないことは本人の心身状態に合わせて必要部分に介入する様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係性にも十分配慮した上で、面会時や電話連絡時に本人の状況を伝え、家族にも定期面会や具体的な意向表出等、色々な形で関わってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の面会受け入れや、自宅に帰る事等の提案、実行できるような支援を行っている。	契約時に馴染みの人や場の聞き取りが少ない方でも、生活の中で利用者から聞いたことは、ケース記録に記入してアセスメント表に追記されている。近所の友人が面会に来られたり、法事や誕生日で家に帰られる方もある。住んでいた家に行きたい希望の利用者には家族の協力を得て、家族に受け入れ態勢を作ってもらい、職員と一緒に車で住んでおられた家を訪ね喜ばれている。月1回、お花の先生だった方の指導で花を活けて楽しませている。また、編み物の好きだった方や料理の得意な方、ピアノが好きな方とそれぞれにお披露目の場を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、日常の活動や座席等の配置などに配慮している。入居者間で話し合っている事に対してはすぐに職員が介入するのではなく、入居者間でのやり取りを大切にし、必要に合わせて介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族から相談があった場合は対応できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向を言える方は思いを聞き、言葉にできない方にはこれまでの暮らし方やその人となりから本人を中心とした考え方で意向を把握できるよう努めている。	契約時の聞き取りで、生活歴や暮らし方、家族や利用者の意向を聞きアセスメント表に記入し、日常生活の中で分かったことはケース記録に記入して職員で共有している。日々の生活の中では利用者の自分で出来る力を大切にしているので、利用者が困っていなかったら、本人が主体的におこなわれるのを見守られていることが多い。意思表示の出来ない方はアセスメント表やケース記録で共有したことを参考に表情や仕草から、本人本位に考えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族、利用サービス事業所からの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のケース記録に詳細を記録している。記録には本人の表情や言葉、その時に出来た事、出来なかったことなどの記載も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なアセスメントシートの他に私の姿勢シートも活用し、それぞれの職員が得た情報を共有できるようにアセスメントは全職員が関わられるようにしている。	アセスメントで、その方を知ることが大切にし、全職員が関わって作成する「私の姿勢シート」も、年1回は活用して話し合っている。ケース記録にその方の介護計画を表示し、介護計画に沿った利用者の姿がよくわかる記録をされている。1カ月ごとにモニタリングをおこない見直しの必要性を検討している。介護計画の見直しの前には医療情報を得て、再アセスメントをおこない、家族の参加を基本としたサービス担当者会議を開催している。プランの見直しは基本6か月毎だが、必要時はその都度見直しをおこない、現状に即した介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の情報については個別のケース記録に記載している。毎月の会議の中で現状のケア内容から変更等の必要性がないか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内から理学療法士に来てもらい、歩行状態を見てもらったり、訪問系の医療サービスの受け入れを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの訪問美容師や地域の移動スーパーの利用、誕生日には近隣をドライブし公園に行ったり、近くの店でテイクアウトをする等行っているが、地域資源が何かわからないという意見もあり、事業所内で地域資源について学ぶ機会を持つことにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の選択は本人、家族の希望を入所時に確認し入所後の医療介入方法について決めている。入居者それぞれの主治医と連携を図り、希望する医療を受けることができるよう支援している。	利用者・家族の希望により、主治医を決めてもらい、協力医の訪問診療を月2回受けている方や、今までの主治医に訪問診療で来てもらう方、家族と通院される方がおられる。協力医と同法人の訪問看護師に週2回来てもらい、バイタル測定や便の確認など利用者の状態確認をもらっている。訪問歯科と歯科衛生士は希望者が契約して受診している。他科受診時には主治医や協力医の紹介で家族が同行されている。緊急時や夜間は訪問看護師(24時間オンコール)が医師の指示をもらっている。訪問マッサージを半数近くの利用者が受診すると共に、同法人特別養護老人ホームの理学療法士に歩行状態の相談をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回月曜日、木曜日には訪問看護師が来園しており、必要に合わせて入居者の状態報告、相談を行っている。来園時以外にも24時間オンコールで相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設から情報提供を行い、退院時には退院前カンファレンスや看護サマリーを通して情報収集を行っている。病院相談員との電話連絡等でも施設の受け入れ体制の説明などを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りケアについての説明や意向確認を行っている。施設での看取りケア意向を受けた場合はカンファレンスを開催し、本人の状態から予測される病状や施設で出来る対応について確認している。身体状態が悪化した場合や定期的にはケアプランの見直し時期に合わせて意向の変化がないか確認している。	令和5年度には6人の看取りを経験し、家族の要望や思いを丁寧に聞き、職員や看護師と相談の上、日々の支援を進めている。職員会議で、認知症リーダー研修を受けた職員や経験している職員を講師に、看取りの研修をしている。終末期の方には医師が毎日往診している。家族の面会人数や時間制限はなく、居室に簡易ベッドを提供し宿泊できるように対応している。看取り終了後は振り返り、次につないでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応表を作成しており、救急搬送の有無を明確にしている。法人勉強会で救命講習等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を隣接する法人施設と協力体制、警備会社と連携体制を図り年2回行っている。そのうち1回は消防立ち合いで訓練を行っている。地震を想定した机上訓練を行っている。	年2回火災想定避難訓練を法人本部の協力を得て実施している。利用者は1階は玄関で、2階は非常口で助けを待ち、車いす利用の方も全員が参加している。地震想定避難訓練は机上で行っている。BCP(事業継続計画)は法人内で委員会を作り作成途中である。居室の扉に車椅子マークを貼って避難の時の目印にしている。備蓄は防災関係は法人本部で保存し、事業所では水だけ保存している。同法人の特別養護老人ホームが福祉避難所になっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とは何か、自己決定してもらうとはどういうことなのか等、基本に立ち返り学ぶ機会を持ったり、会議の中で話し合った内容を現場で実践できるように努めている。	法人研修で接遇マナー・職業倫理を学び、利用者一人ひとりの尊厳についてや、言葉遣い、対応の仕方を学んでいる。内部研修でも「自己決定権を尊重するとはどういうことか」を実例をあげて話し合っている。入浴時や着替え時の衣類の選択や、食べたい物を広告などを用いて指差してもらうなど利用者の思いを受けとめ、支援につなげている。浴室の更衣場所は見えないように、材質を工夫してカーテンを取り付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や着たい服等、言葉ではわかりにくい方へは広告を見たり、好きな色を選んでもらったりして、入居者それぞれが自分の希望を表出しやすい方法で意思決定してもらえるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気分に合わせて支援しているが、その日の都合で出来ない事もあるとの意見もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアピンを付けたり、メイクをしたり、好きな服を着たりできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週火曜日、土曜日の昼食メニュー決め、食事作り、金曜日のおやつ作りを行っている。食事の盛り付けや片付けなども行っている。	業者から毎食届く副菜を再加熱して提供し、ご飯(オートミール入り)、お粥はユニットごとに炊いている。利用者は盛りつけや、配膳、テーブル拭き、下膳、食器洗いなどその方の力に応じてされている。週2回、火曜日のルーを使った献立、土曜日の利用者の好きな献立の日には、利用者は野菜を切ったり、炒めたり、煮込むなどで調理に関わられている。外部評価の見学時、利用者が人参を切る時に、はじめは戸惑っておられたが、職員の切る姿を見て思い出され、手際よく切っていかれる姿を見せてもらった。暦の行事食は業者に用意をして貰い、ひまわり祭りでは、同法人特別養護老人ホームの栄養課の屋台風のお店を楽しみ、餅つきでは、うるち米ともち米を合わせた餅で利用者にも食べられるようにしている。おやつは週1回はホットケーキを焼き、利用者が移動スーパーで好みの果物を購入し、トッピングを楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の方、糖尿の方には通常の食事量を減らして提供している。嚥下状態に合わせて食形態を変えたりトロミ剤を使用して飲食提供を行っている。食事量、水分量は個々で記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者には歯科衛生士が定期的に口腔ケアに入っている。本人の能力に合わせて声掛けや口腔ティッシュを使用する等、必要部分の介助を行っている。朝食後や昼食後に口腔ケアを行っていない事があり、改めて事業所内で口腔ケアを毎食後実施することを確認した。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 2階ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には個々の排泄記録を確認し、時間間隔をみながらトイレ対応を行っている。自力で立てない方もトイレでの排泄が負担でない場合は、職員が2人介助を行いトイレでの排泄が出来るようにしている。	排泄パターンを把握し、利用者の様子を見て声を掛け、トイレでの排泄を支援している。介護老人保健施設から入居されて、当初リハビリパンツで過ごされていたが、様子を見て布パンツに履き替えられ、布パンツでの生活が続けられている。このように、利用者の様子に目を配り、快適な排泄ができるように支援している。トイレが負担になっている方はおむつを履かれている(看取りの方と101歳の方)。また、骨折経験や体調をくずされた方は夜間だけ、居室のポータブルトイレで安心して排泄が出来るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が摂れる様、白米にオートミールを混ぜて炊き込んでいる。定期的に生のフルーツを食べる機会を持ち、水分摂取を勧めるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯などは決めず、入りたい時に入ってもらえるように、出来る限り湯に浸かってもらえる様に配慮している。	入浴は、毎日9時から20時の間、利用者が入りたい時に入浴している。毎日2人から3人以上の方が入り、夕食後に毎日入られている方もおられる。また、終末期の方も湯船に浸かれている。入浴後の衣服を自分で選び、好みの湯加減や湯量の中でゆったり、ゆっくりと入浴し、緊張される方は歌を歌ったり、職員と話をしながらリラックスして入浴ができる支援をしている。浴槽は1回ずつ洗い。バスマットも毎回変えている。入浴を嫌がられる方には、時間を替えたり、声がけする職員を交代して、週2回以上の入浴を支援している。冬至にはゆず風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調によって休む時間を持ったり、空調管理等も行い、環境を整えている。夜間眠れない時には話を聞いたり添い寝をし、不安や心配事による不眠の解消に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師への相談や報告は細やかに行っている。入居者の服用薬の把握を行うことは大事なことでと理解し、薬について把握できるように努めている。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 2階ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事仕事をしてもらう機会を持ったり、外気浴や好きな飲み物などを飲んでもらうことなどを行っている。家族に依頼し好きなお菓子、電子ピアノ等を持って来てもらっている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人の外出制限により、会食を伴う外出はできない。また、人混みなどを避けるため、スーパーマーケット等への外出は控えている。法事の為、自宅に帰る事やご主人の葬儀への参列、個別の誕生日企画で公園へ出かけたり、ドライブスルーを利用し好きな飲み物を楽しむことなどは支援している。	前庭に出て、ポストへ朝刊、夕刊を取りに行くのを日課にしている人や洗濯物を干しに行く人もいる。また、前庭で、外気浴やティータイムを楽しんだり、バーベキューをすることもある。車での窓越しドライブを楽しめるように計画中である。人込みを避けての外出や飲食を伴わない外出の工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が個人的に金銭を所持している事はない。定期的にご利用してる移動スーパーの支払いに入居者が少しでも関わることができる様、取り組み始めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、家族に連絡を取っている入居者もいるが、電話を持っていない方も家族と話したい希望がある時には電話をしてもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月に一度生け花を行い、室内でも季節感を感じてもらえるようにしている。冷暖房や床暖房を使用したり換気を行い快適な室温環境にしている。	1・2階ともリビングは南に面して大きな窓があり、明るく床暖房が入り暖かい。長方形のテーブル3卓、少し小さい正方形のテーブル1卓が配置され、利用者は好みの所に座っておられる。手作りの日めくりカレンダー、時計で見当識障害の進行の予防にも配慮されている。オープンキッチンで料理をする職員は利用者の様子の把握や利用者との会話を楽しんでいる。ご夫婦で階を分けて入居しておられる方は、昼間は2階のリビングで過ごされている。利用者と一緒に活けた花を各階に飾り季節感を楽しまれている。携帯用のピアノで知っている曲を演奏され、楽しげなリビングでの光景も見られた。掃除は主に職員がおこない、利用者はコードレスクリーナーで掃除をされている方もいる。換気扇や窓の開閉で心地よくいられる場所にしたいと管理者は話されていた。	

京都府 グループホーム京都ひまわり園 2階ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食事用の椅子の他にソファを置き、入居者がその時の気分で使用できるようにしている。食事の席は入居者同士の相性に配慮して決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具や布団、趣味用品等を持って来てもらい心地よい空間作りに取り組んでいる。	ドアに表札を掲げ、家族が管理者に相談されて、部屋がわかりやすいように、折り紙を横の壁に飾られている部屋もある。居室には、エアコン、クローゼット、カーテン、洗面台、ピクチャーレールを設けている。室内はジョイントマットを敷いている人や、すのこの上に布団を敷き寝ている方もおられる。馴染みのテレビやソファ、整理ダンス、ハンガーラックを置き、目覚まし時計やカレンダー、クッション、ぬいぐるみ、手作りの花や家族の写真、お花の免許の名札や自分が作ったパッチワーク作品を飾ったり、自分で編んだ服やメイクボックス、仏壇、卓上電子ピアノを持ってきている人もおられる。清掃は一日おきで、コードレスクリーナーを自分でかけておられる利用者もいる。職員は換気や空調に気をつけ、居心地よく過ごしてもらえるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札がある。表札ではわかりにくい方は、折り紙を目印にする等の個々の能力に合わせ工夫している。共用のトイレにはわかりやすくトイレの掲示をしている。		